



秋田市制120周年記念市民企画イベント市民検討委員会のみなさんと

新春市長ほつとコラム

節目の年。

希望の光を求めて

秋田市長 佐竹敬久

市民の皆様、あけましておめでと
うございます。

平成21年丑年を迎え、それぞれに
ご家族やご親戚、久しぶりに郷里に
帰ってきた友人などと、あたたかい
時間をお過ごしのことと思います。

昨年は、私たちの生活が経済面を
中心に国内外の出来事に大きく左右
された年でした。今年は、願わくば
厳しいながらも行く先に希望の光を
見出すことができるよう、気持ちを
新たに「ふるさと秋田づくり」のた
め頑張つてまいります。

金融危機の後に

昨年9月、米国で150年の歴史を有
する投資銀行「リーマンブラザーズ」

が破たんして以降、世界経済は一気
に混乱の渦に巻き込まれ、わが国で
も企業倒産や雇用解雇、就職内定取
り消しが相次ぐなど、国民生活は深
刻な影響を受けています。国民生活
の安定のためにも、一刻も早い経
済・生活両面での強力な対策が必要
であり、今こそ、国・地方ともども
国家の危機的状況という認識に立つ
た政治の強力なリーダーシップを必
要としています。

今回の危機は、一方で、米国を中
心に拡大してきた弱肉強食の競争至
上主義、行き過ぎた金融資本主義の
終焉であり、格差の拡大を招いた市
場原理一辺倒の極端な構造改革路線
と決別する転換点とも捉えられてい
ます。私も、近年のわが国について
は、何か大切なものが置き去りにさ



笑顔で毎日を過ごせるように(草生津川の桜並木)

れたまま、向かう方向を見失っていたように感じています。何もかも米国にならう必要はなく、日本には固有の美点がたくさんあります。人の和を重んじ、弱いものに手を差し伸べ、そして、四季の微妙な移ろいにも美を見出す繊細な心などは、世界に誇り得る民族の特質ではないでしょうか。

今回の状況を契機として、地方の中小企業や家計、勤労者などで、あまり光が当たらなかった分野に光を当てる方向に、社会経済全体が揺り戻され、美しい自然の中で人々が支え、助け合い、笑顔で日々を送れる、本当の意味での豊かな日本へ向かっていきたいと思えます。

市制120周年の節目を 明日の活力に

今年、1889(明治22)年の秋田市制施行から、120周年の記念すべき節目の年にあたります。

市では、第11次秋田市総合計画で重点政策として取り組んでいる「絆」をメインテーマに、心に残るさまざまなイベントを開催する予定です。できるだけ多くの市民にご参加いただき、個々のつながりや地域の絆を深め、一人ひとりの精神的な豊かさや市全体の活力に結びつけたいと考えています。

おもな構成は、①7月12日、市の記念日に開催する120周年記念式典および記念行事、②次代を担う若者たちが企画・運営する市民企画イベント、③ドイツ・パッサウ市との姉妹都市提携25周年に合わせた公式訪問団や市民交流団の編成、そして④市民のお祝いの気運をより高めるための関連事業の4つとなります。

関連事業としては、5月の西部市民サービスセンターのオープンニングセレモニー、10月の秋田県種苗交換会、さらには市民のスポーツイベントや地域で行われる祭りなど、年間を通じた事業展開を予定しています。こうした一連の記念行事とおして、多くの市民が触れあい、ともに120周

年を祝うことにより、本市の歴史に新たな1ページを刻みたいと考えています。

都市内地域分権が 西部から始動

120周年という記念すべき年に、秋田市がめざしてきた都市内地域分権が、いよいよ本格的に始動します。秋田市は、平成17年の市町合併以降、約2倍の面積に拡大した市域を念頭に、市内各地域の個性を大切にしながら、行政サービスを身近な場所で行い、地域に密着したまちづくりを展開する都市内地域分権をめざしてきました。

その拠点施設の第1号となる西部市民サービスセンターが、5月にオープンします。地域のみなさんのニーズに沿ったものとするため、計画当初から、ワークシoppなどを通じ、地域のみなさんと二人三脚で検討を進めてきました。この度、複合的機能を有する施設が、市民協働の成果として立ち上げられることは、私としても大変誇らしいことですし、地域のみなさんも喜ばれていることと思います。

西部市民サービスセンターには、道路・公園の補修や、地域活性化につながる事業・取り組みを支援する



西部市民サービスセンターの愛称は「ウェスター」。工事も着々と進んでいます(昨年12月)

ための権限と予算を委譲し、地域のみなさんとの連携のもと、地域の実情に沿った事業を実施できるようにしたいと考えています。もちろん予算には限りがあり、すべてを実施するということにはならないのですが、地域のみなさんには、日ごろ感じておられる課題を、センターと連携しながら地域で解決していく提案をしていただくよう期待しています。

こうした地域住民の発意と参加による新たな地域づくり活動が、都市内地域分権の推進、さらには住民自治の充実につながり、今年着工の北部市民サービスセンターなど順次整備される他地域サービスセンターを拠点に、今後、市内全域に広がってほしいと考えています。